

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-316	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Association of the Sweet-Liking Phenotype and Craving for Alcohol With the Response to Naltrexone Treatment in Alcohol Dependence: A Randomized Clinical Trial. アルコール依存症に対するナルトレキソン治療下のアルコールの渴望と甘い好みに関する表現型との関連：無作為臨床試験		
<b>執筆者</b>		
Garbutt JC <sup>1</sup> , Kampov-Polevoy AB <sup>1</sup> , Kalka-Juhl LS <sup>2</sup> , Gallop RJ <sup>3</sup> .		
<b>掲載誌</b>		
JAMA Psychiatry. 2016 Oct 1;73(10):1056-1063. doi: 10.1001/jamapsychiatry .2016.2157.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
ナルトレキソン、表現型、アルコール依存症、甘味		2762778
<b>要 旨</b>		
<p><b>重要性:</b> アルコール依存症の塩酸ナルトレキソン治療に対する反応の調節機構を同定することにより、アルコール使用障害患者の臨床的ケアを改善できる。</p> <p><b>目的:</b> 甘い好み (SL) 表現型が高レベルでアルコールを渴望するかどうか、アルコール依存症でナルトレキソンに対する反応が改善するかどうかを予備的に調査する。</p> <p><b>設計、設定と参加者:</b> 12 週間の二重盲式無作為プラセボ対照臨床試験は、2010 年 2 月 1 日から 2012 年 4 月 30 日まで、一つのアカデミックな外来患者医療センターで行われた。80 例の飲酒中の患者は、SL (n=22) または甘味を嫌う (SDL) (n=58) 表現型であり、治療前の飲酒渴望が中央値より大きいことで定義される高度な熱望 (n=40) か低い渴望 (n=40) かにランダム化された。患者とスタッフに対して事前に知らせない二重盲検で行った。医学的または精神病 (ニコチン以外の薬に対する依存を含む) に不安定な患者は、除外した。4 例の患者 (プラセボ群 2 例とナルトレキソン群 2 例) は、副作用のため、薬物治療を中止した。データは 2013 年 1 月 15 日から 2016 年 5 月 15 日までのものを分析し、治療する意図に基づいた。</p> <p><b>介入治療:</b> 毎週または隔週の短いカウンセリングを行いながら経口塩酸ナルトレキソン、50mg/d またはプラセボを投与した。</p> <p><b>主要な結果と手段:</b> 演繹的な仮説は、SL/SDL 表現型、治療前の飲酒渴望、そして、両者の治療期間中の断酒日および暴飲日の頻度を調節する上での相互作用について、時間経過を follow-back する方法で評価した。</p> <p><b>結果:</b> 80 例の患者はランダム化された (57 人の男性 [71%] ;23 人の女性 [29%] ; 年齢、47.0 [8.6]年 平均 [SD] )。暴飲に関するナルトレキシンの効果は有意ではなかった (4.8 日暴飲日が減少; Cohen d=0.45; 95%CI、-0.01~0.90; F1,67=3.52;</p>		

P=0.07)。SL 表現型は、暴飲日に関してナルトレキソンの効果を緩和した（6.1 日暴飲日が減少；Cohen d=0.58；95%CI、0.12-1.03；F1,67=5.65；P=0.02）、そして、断酒日（談守備の増加 10.0 日；Cohen d=0.57；95%CI、0.11-1.02；F1,67=5.36；P=0.02）と高度な熱望による暴飲を緩和した（暴飲日の減少 7.1 日；Cohen d=0.66；95%CI、0.20-1.11；F1,67=7.37；P=0.008）。SL 表現型と高度な飲酒熱望の組合せでは、プラセボと比較してナルトレキソンに対する強い反応と関係し、暴飲日が 17.1 日減少し（Cohen d=1.07；95%CI、0.58-1.54；F1,67=19.33；P<.001）、断酒日が 28.8 日増加した（Cohen d=0.72；95%CI、0.25-1.17；F1,67=8.73；P=.004）。

**結論と関連：**SL 表現型とアルコールの高度な熱望は、ナルトレキソンに対する陽性反応に個別に、そして、特に組合せで関係する。SL/SDL 表現型と飲酒の高度な熱望は、患者をナルトレキソンに反応するアルコール依存症と同定する因子として更なる調査をする価値がある。